

## 自動車の動向など不透明だが

橋本健一郎氏 リポート②

橋本健一郎氏  
 行(ECB)による追加の金

前年比一四・七%減の七万六、四一六戸であった。

### ◆貿易関連指標

一月前半は、欧洲中央銀行(ECB)による追加の金融緩和への期待やインフレ率の引き下げを決めたな

どもプラス材料もあったが、世界銀行発表の世界経済予測で成長率が三・四%増から三%に下方修正されたことや一月の米小売売上高は前月

比〇・九%減少、予想の〇・一%減少を下回った

こと、十二月ユーロ圏PMI改定値は総合が五

一・四、サービスが五一・六に下方修正十一月の

米ISM非製造業景況指数は五六・一に低下、

予想は五八。十一月の米製造業受注指数は前

月比〇・九%減少、予想の〇・五%低下を下回

るなどの経済指標の悪化を受けてDOWN。

一月十五日時点でLMEアルミ相場は一、

七八〇ドル(現物後場買い)と月初価格から五

〇ドルDOWNの前半締めとなつた。

後半は、イスズ銀が対一二口での上限を撤廃。そ

の一環として政策金利をマイナス〇・二五からマイ

ナス〇・七五%引き下げを行つたこと、IMFの

世界経済成長見通しが二・五%増と〇・三%引き

下げられたこと、ギリシャの総選挙では反緊縮派

の急進左派連合が圧勝。同国の財政政策に対する

先行き不透明感が台頭したことなどの悪材料も

あつたが、二〇一四年のEU新車登録台数が前

年比五・七%増加の一、二五五万台たらた事、国

際エネルギー機関(IEA)は十六日発表の一月

の石油市場月報で、非石油輸出国機構(OPEC)

によると一五年の供給の伸びを前月の見通

しから日量三五万バレル少ない九五万バレル増に

引き下げたことを受けて、原油が反発した事や欧

米の経済指標の好転を受けて上昇。

二月三日現在、LMEアルミニ相場(現物後

場)は一、八五二ドルと後半スタート価格から

六八ドルUPしてのスタートとなつた。

### ■前月の経済指標

#### ◆自動車生産台数

二二〇・七七→二二八・四四(円)

#### ◆自動車販売台数

日本自動車工業会によると、自動車生産台数は

前年比二・五%減の七六万六、九四五台があつた。

#### ◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、自動

車販売台数(軽除く)は前年比一八・九%減の二三万七、一七〇台。

◆新設住宅着工戸数

国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数は

增加、小型は九、四九二台で三〇二台(二・三%)の増加。(六面へ続く)

アルミ原価はなるタイトに



橋本健一郎氏  
 行(ECB)による追加の金

財務省貿易統計によれば、輸出はアルミ新地

金が前年比三八・九%増の一七五t、二次合金

が四・六%減の一、二五三t、スクラップが二

五・一%減の一万〇、五九二t。

### 輸入

アルミ輸入は新地金が前年比一七・三%増の

一二万〇、一七〇t、二次合金が一一・三%増

の一〇万〇、七〇〇t、スクラップが七四・三%

減の一、三八九t、合金スクラップは六九・四%

減の六、五四四t。

### 概況

日本アルミニウム協会発表の庄延品の生産出

荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比

二・九%減の一六万〇、七三一t。

日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム

二次合金・同合金地金等生産実績は、前年比

二・四%減の六万六、二三二であった。

### ■自動車生産

十二月の四輪車生産台数は七六万六、九四

五台で、前年同月の七八万六、七二〇台に比べ

て一万九、七七五台・一・五%の減少となり、六

力月連續で前年同月を下回つた。

十二月の車種別生産台数と前年同月比は次

の通り。

乗用車は六四万九、二三七台で一万八、七

九六台(二・八%)の減少となり、六力月連續

のマイナス。このうち普通車は三六万一、

四〇七台で一、七〇二台(〇・五%)の減少、

小型四輪車は一二万九、六七八台で一万八、

四九〇台(一二・五%)の減少、軽四輪車は

一五万八、一五二台で一、三九六台(〇・九

%)の増加。

トラックは一〇万七、一七〇台で一、五一四

台(一・四%)の減少となり、二力月連續のマイ

ナス。このうち普通車は四万九、二三七台で三、

七七台(六・七%)の増加、小型四輪車は二万

三、五九二台で一、〇四六台(四・二%)の減

少。軽四輪車は三万四、三五一一台で三、五四五

台(九・四%)の減少。

バスは一万〇、五三八台で五三五台(五・三

%)の増加となり、二力月ぶりにプラス。このうち

大型は一、〇四六台で二、二三三台(二・八・七%)の

増加、小型は九、四九二台で三〇二台(二・三

%)の増加。

(四面より続く)

十二月の国内需要は四三万一千台で、前年同月比二・一%の増加であった。うち乗用車三六万台、三四六台で前年同月比〇・三%の増加、トラック七万台、七四三台で同一二・〇%の増加、バス八二九台で同一九%の増加。

【自動車販売】

一月の国内自動車販売台数(輸出除く)は二三万七千台で、前年比一八・九%減、五力月連続マイナスうち乗用車は二一・四%減、貨物四・四%増、バス二六・七%。

【住宅着工数】

平成二十六年十二月の住宅着工戸数は七万六千戸で、消費税率引き上げ前の駆け込み需要の影響が大きかった前年同月比では一四・七%減となつた。一方、そのような影響のない前年同月と比べると〇・六%増となつてゐる。また、季節調整済年率換算値では八八・三戸(前月比一・一%増)となつた。

【アルミニウム】次回金・同合金地金等生産実績】

前年比一・四%減の六万六千戸、一二三戸であった。出荷は一・六%減の六万八千戸、一一一戸、一〇力月連続マイナス。うち、出荷先別では、铸物二・六%減、ダイカスト一・八%減、板一・七%減、押出六・八%減、鉄鋼七八%増、合金地金メタル一・五・一%減。

【アルミニウム圧延・押出品生産數】

一・七%減の一六万九千戸、七八九t、一五力月ぶりマイナス

#### 板類

①缶材三万一千台、四五六t(〇・五%減)  
ボトル缶(主にコーヒー缶)の好調及びコカコラのコーヒー缶がスチールからアルミニに切り替わるなど追風はあつたが、スチール缶コーヒー向の需減に伴う蓋材の減少により(十一月の蓋材リ七千九百四十一戸、前年同月比二四・〇%減)、缶材としては微減。

②自動車一万二二六六t(二・七%減)

乗用車販売台数の減少により、二力月連続マイナス(十一月の新車乗用車販売台数二二〇万台四千台、前年同月比一五・九%減)。

③輸出一万七千四六四t(二・七%減)

海外関連工場への素糸輸出の増加等により、八力月連續でプラス(一月三三%増、五月二〇%増、六月三五%増、七月三四%増、八月一五%増、九月三〇%増、十月四四%増、十一月二七%増)。

【押出類】

①建設四万一千台、三九七t(二・五%減)  
新設住宅着工戸数の減少が影響(十月の着工戸数七万九千戸、前年同月比二二・三%減)。

②自動車一万一千六九t(四・七%減)

板類と同様の動き。

アルミニウム輸出は新地金が前年比三八・九%増の一七五t、二次合金が四・六%減の一・二五三t、スクランプが二五・一%減の一萬一千台、五千九t。

輸入は新地金が前年比一七・三%増の一萬二千台、一七〇t、二次合金が一・三%増の一〇万台、七〇t、スクランプは七四・三%減の一・三八九t、合金スクランプは六九・四%減の六千五百四t

【見通し】

自動車は生産が前月に続き減少の一・五%減。また

一月の国内販売台数も前年比一八・九%と減少幅も拡大。販売の減少が五力月連続、続きマーケットもそれに伴い生産を調整している。輸出は〇・五%増と微増、販売台数の下げ止まるかどうか、今後の動向に注目。

新設住宅着工数は前年比一四・七%減、季節調整済率換算値で八八・三万戸(前月比一・一%増)消費税率前駆け込み需要も終了。九力月連続減少。ただ季節調整済換算では四力月連続プラスであり、今後の動向に期待する。

前月に続き、二次合金は自動車生産の減少、生産も小幅減少、出荷は相変わらず減少。今後も大幅な改善は期待できないが大幅な悪化もないとの見解。

アルミニウム圧延・押出品生産数

好調であった板がコップコーヒーに押され減少、押出も住宅、自動車販売の減少から下落。行楽シーズンまでは管需要が増えますとのままの状態が続くとの見解。

輸出 年末因と円安も伴って新地金が増加。

輸入 新地金 二次合金は慢性的な原料不足と一八〇〇ドル近辺まで下落した事から割安感が出て増加。

スクランプは円安故の割高感から減少。

前記を踏まえアルミニウムクラップ需給は引き続きタイトとの見解。

【価格・為替予想】

今月は、原油価格がギリシャ新政権との債務交渉及び旧正月前の中国政策に左右される。

WTI原油は米投資会社ゴードマンサックスが四〇ドル割れを予測した事がから、一時四五ドルを割り込む水準まで下落するも、その後OPECが二〇・五年の原油需要が年後半にかけて持ち直すとの見通しを発表するなどの口先介入をしたことから、四五ドル近辺で下落一旦ストップ。

米国もこれ以上の下落は総合的にNYダウの下落要因になるとの見解も始めており、両者が居心地のいい五〇・五五ドル近辺で推移するのではないか。

ギリシャとの債務交渉は左派政権がかなりの支持を集めしており、混乱が予想される。

中国との港湾の民営化に関しても問題が生じておりますとして長引きそう。

旧正月前の中国の政策だが、特に大きなニュースがない一方で貸付枠の拡大など、細々とした景気対策が出てきており今後の動向に期待したい。

下値はいずれの条件も達成できなかつた場合も一つ段安値の一・七〇〇ドル。

為替はスイス中銀の上限撤廃(ユーロ一・二〇〇スイスフラン)に設定していたスイスフランの上限レートを撤廃し、無制限のフラン売り・ユーロ買いの為替介入をやめると決めたことを受け一・五円まで上昇するもECBの追加緩和を受けて現在は一・七円近辺。

今後、ギリシャ債務問題でござれるようなら下値は一五円台。下値はECBの追加緩和前の一・八円台(TTM)。

メーカー・スクランプ購入価格は五円安く横バイと予測している。